

プログラム

(15:30 開場)

- | | |
|-------------|---|
| 16:00~16:05 | オープニング人形劇(デモンストレーション) |
| 16:05~16:10 | ご挨拶:西井 準治 北海道大学 理事・副学長/創成研究機構長 |
| 16:10~16:20 | 「わたしたちと文化遺産をつなぐアート」の力
岡田 真弓 北海道大学 創成研究機構 特任助教 |
| 16:20~16:40 | 遺跡に残された古代からのメッセージ「考古学はどのように過去を解くのか」
加藤 博文 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授 |
| 16:40~17:10 | 遺跡から生まれた人形劇「OKHOTSKー終わりの楽園ー」
沢 則行 人形劇師・演出家(国際人形劇連盟(UNIMA)会員)、さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 |
| 17:10~17:20 | 休憩 |
| 17:20~18:00 | トークセッション「考古学とアートでつくる北海道の新たな文化」 |

【講演者・出演者紹介】

人形劇師 ▶ 沢 則行 (さわ のりゆき)



小樽市出身。1991年に渡仏。1992年に文化庁在外研修生で、チェコへ。プラハを拠点に世界各国で公演。また、チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部、米国スタンフォード大学演劇学科、シカゴ大学、ロンドン人形劇学校など、多くの教育の現場で講座、ワークショップを指導した経験を持つ。1999年、ヨーロッパ文化賞「フランク・カフカ・メダル」授与。2009年、セルビア・スポティツァ国際児童演劇祭で演技賞、音楽賞をダブル受賞。2011年にはポーランド・カトヴィツェ市よりEU文化都市賞が贈られるなど、国際的受賞多数。NHK『ようこそ先輩・課外授業』出演(2006年)、『みんなのうた』映像制作(2009年)、第66回さっぽろ雪まつり巨大人形オペラ「雪の国のアリス」芸術監督(2015年)など。

考古学者 ▶ 加藤 博文 (かとう ひろふみ)



北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授
夕張市出身。1990年に旧ソ連に留学。現在、北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授、ウプサラ大学(スウェーデン)考古学・古代史講座客員教授、オックスフォード大学アジア考古学・芸術・文化研究センター客員研究員、日本シベリア学会会長を務める。北海道大学、オックスフォード大学、ウプサラ大学などで先住民考古学の講義を担当する。主な著作:『シベリアを旅した人類』(東洋書店)、「旅する人類の考古学」「北方を旅する」(北海道大学出版会)、「狩猟対象から儀礼対象へ:シベリアに食と儀礼の起源を探る」「食と儀礼をめぐる地球の旅」(東北大学出版会)など。2011年から礼文島で毎年、国内外から80名近くの学生や院生が参加する国際フィールドスクールを主催している。

聞き手 ▶ 岡田 真弓 (おかだ まゆみ)



北海道大学 創成研究機構 特任助教
東京都出身。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了(史学博士)。北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員を経て、2015年より現職。文化遺産のなかでも特に考古学に関するモノ・コトが現代社会においてどのように受容され、また活用されているのかに着目し、北海道やイスラエル・パレスチナを対象に研究を行っている。2011年より礼文町浜中2遺跡の発掘調査に参加し、おもに地域社会への研究成果の還元や教育普及活動に従事。

人形劇 ▶ さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 (主遣い:矢吹 英孝/左遣い:安田 晃子/足遣い:池内 潤樹)

北海道から新たな気持ちで人形浄瑠璃を発信していきたいという想いを込め、アイヌ語から「あしり(=新しい)」座と命名。道民の手で人形を遣い、演じ続けていくことで、北海道発の新しい文化の創造を目指す。北海道では唯一、人形浄瑠璃の公演を行う一座として1995年に誕生。年1回の定期公演を中心に、北海道各地域での依頼公演、全国各地のフェスティバル参加、各地でのワークショップ等精力的な活動を行っている。

- ・2007年 徳島県で開催された「第22回国民文化祭」に人形浄瑠璃部門に招待劇団として参加。
 - ・2013年 あしり座初の海外公演となる韓国公演、ヨーロッパ公演(ハンガリー、スロバキア)を成功。
 - ・2015年 二十周年記念公演を実施し、1,200名以上を動員。
- 〈主な受賞歴〉・2014年11月…第3回北の聲アート賞「ハルニレ賞(特別賞)」 ・2014年12月…札幌劇場祭2014「審査員奨励賞」